

8月の園だより

回覧

令和8年7月31日(金) 羽茂こども園
副園長 吉田 歩

長い梅雨で不安定な天気が続きますが、子ども達は夏野菜の収穫、セミやセミの抜け殻探しなど夏ならではの経験など様々な発見をしたりして楽しんでいる様子が見られます。一方で、室内でも豊富な素材を使ってお家作りをしたり、絵の具などの画材に触れて様々な表現を楽しんだりしています。これからも子ども達の遊びの姿から適切な遊びの環境を整えていきたいと思ひます。

7月に開催された保育参観や個別懇談会では、ご多用のところお越しいただきありがとうございました。これからも子ども達のために、園と家庭との連携を大切にしながら、保育に努めてまいります。

8月の行事予定

日	曜日	予定	対象クラス
3日	月	羽茂高校職場体験(～4日)6名	全園児
7日	金	布団の手入れ	全園児
10日	月	希望保育(～14日)	全園児
11日	火	山の日 / 1号認定園児夏季休暇(～17日)	
21日	金	布団の手入れ	全園児

※夏期は衛生面を考慮し、布団の手入れを基本的に隔週で行います。

※土砂災害を想定した避難訓練を行います。

※身体測定の日程につきましては、アプリ コドモのカレンダーよりご確認ください。

※8月の育児相談会はお休みさせていただきます。

9月の主な行事予定…18日(金) 祖父母参観 25日(金) 親子遠足(0、1、2歳児)

新しい友だちを紹介します

○8月25日より入園します。

ひよこ組 1名

よろしくお願いします。



教育実習

下記の日程で、学生が教育実習で来園します。

たくさん遊んで楽しみたいと思ひます。

<教育実習>

日程：8月31日～9月30日

新潟こどもカレッジ3年生



保育園留学園児の紹介

7月は4家庭の留学があり、中にはフランス語を話す人もいて、フランスの言葉に興味を持つなど、たくさんの刺激がありました。また、徐々に距離を縮めて仲が深まっていき、笑い合う姿がとても印象的でした。同行した保護者の中には「時間の流れ方がゆったりしているように感じる。移住したい!」と話すほど佐渡を気に入る声もありました。



・8月3日～8月7日
4歳児1名

栽培から遊びへ

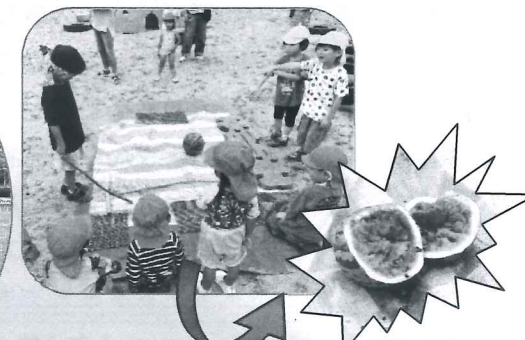
春から育ててきた夏野菜などの収穫の時期を迎えています。スイカやキュウリ、トマトなど食材そのものの食感や味を楽しんだり、子ども達からは「スイカ割りしたい!」「このキュウリでかっぱ巻きを作ろう!」とアイデアがあふれたりしていました。

この収穫からつながる遊びや調理体験など、とても充実したものであったことが、子ども達の生き生きとした表情から伝わってきました。そのいくつかを紹介します。

スイカ割り



収穫したスイカを割る気満々の子ども達。目隠しをした人にスイカの位置を伝えますが、なかなか伝わらず、思わず肩や腕を掴んでなんとか伝えようと必死な姿も、本気さが伝わってきて面白かったです。割れたスイカはみんなですぐに食べました!

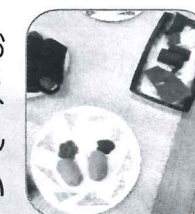


かっぱ巻き作り

慎重に包丁を扱い、キュウリを切っただけのかっぱ巻き作り挑戦。いつも以上にご飯の食べっぷりがよくなる子ども達でした。自分で作るという過程が子ども達に大きな影響を与えているのではないかと思います。

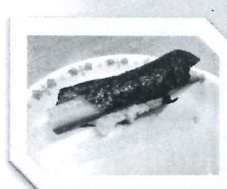


かっぱ巻き作りをすることに決まり、お寿司屋さんが展開していた5歳児クラスでは、白いお手玉でシャリを、花形に編んだオレンジの毛糸でエビのしっぽを、というふうにもまごとコーナーにあるものをお寿司に見立てて作るなど遊びが深まっていく姿も見られています。



カレー作り

おとまり会を経験した5歳児にあこがれた年下の子ども達が、一緒にカレーを作ること。おとまり会で一度作ったことがあるとき組が自信をもって作り方を伝えていました。



裏面に、園長「はもちのほいく」があります。こちら合わせてご覧ください。



今月の1枚 「とき組のおとまり会」

先日17日は5歳児とき組のおとまり会でした。羽茂こども園の恒例行事となっているこのおとまり会は、大好きなお家の方から離れて園に泊まる、子ども達にとっては少しドキドキする2日間です。自分たちで夕飯（カレーライス）を作り、使ったエプロンは洗濯板を使って洗って干し、泊まる保育室の掃除をし、温泉に行って汗を流す。このように自分たちの生活を自分たちで進め、2日目の朝には「あーよく寝た!」「おとまり会楽しい!」と話す子ども達。どの顔もみんな自信に満ち溢れていました。不安になる人もなく、お家の人から離れた生活を楽しむ姿からは、子ども達にとって“羽茂こども園が安心できる場”であるということが伝わってきて、なにより嬉しく思えた2日間でした。

熊本では震度7の地震が起き、大きな被害が報告されています。自然は豊かであると同時に、人間の力ではどうにもならないことがある。自然を目の前に人間が無力であることの切なさを感じます。未だ被害の全容は明らかになっていませんが、犠牲になった方のご冥福をお祈りすると共に、1日も早い復興を願うばかりです。今在ることは当たり前ではない。今を大切に生きることを改めて感じます。

羽茂小学校との連携 ～スムーズな就学を目指して～

文部科学省では2022年より「幼保小の架け橋プログラム」を推進し、全国的に取り組んでいます。このプログラムは、就学前の5歳児から、小学校1年生までの2年間で「架け橋期」と位置づけ、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校が連携して、スムーズな学びに移行できるようカリキュラムの充実や実践研究が進められているところです。

羽茂小学校と羽茂こども園でも、「架け橋プログラム」の作成はもちろん、連携委員会を中心に独自の「連携推進計画」を作成し、日頃から交流・連携を深めています。先日29日には羽茂小の先生方9名にお越しいただき、今年度初の保育参観を行いました。

5歳児クラスを中心に行った参観では、先生方から子ども達の中に入って一緒に遊んでいたたり、集中して取り組んでいる遊びを温かく見守っていただいたりすることで、子ども達は自然に先生方と話しかけるなど、温かい雰囲気の中で時間が流れていきました。

参観後は、5歳児担任・副園長と私が参加し、先生方との情報交換を行いました。

担任からは、「本日の保育」についてどのような姿が子ども達の中にあっただか、前日までの姿からどのように遊びが発展していったかなどをお伝えし、私からは「羽茂こども園の保育」として、理念や日々の保育の中で大切にしていること、環境設定の大切さなどについてお話させていただきました。



自分たちの部屋、汚れ物は自分たちできれいに!掃除も洗濯も楽しむ姿がありました。



以前地域の方の畑で収穫させてもらった野菜を使い、足りないものはAコープでお買い物。みんなで力を合わせてカレー作りを楽しみました。



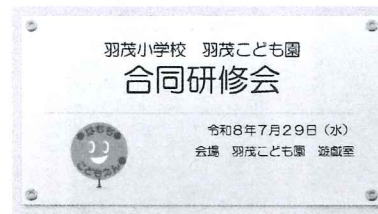
炒め方も手慣れたもの。あまりのおいしさにおかわりして食べる人続出!大鍋のカレーも、飯盒で炊いたご飯もすべて完食となりました!



カブトムシを飼育ケースから出し、競争を楽しむ子ども達の興味に寄り添う羽茂小の先生。



笑顔で見守られ、デカルコマニー(合わせ絵)を楽しむ人も得意そうです。



情報交換では、3グループに分かれ、参観を通しての気づきや、学校の学びにつながる姿などについて、率直に意見を交わしました。たくさんのご意見をいただきましたので、少しご紹介します。

本日の予定	
1. 本日の保育についておよび、園児情報の共有	5歳児担任 影山
2. 羽茂こども園の保育について	園長 石木
3. 保育参観を通しての感想・情報交換	参加者 全員



子ども達のサークルタイムを参観する先生方



小池校長先生の話聞き、連携に向けての意識も高まりました。

情報交換の中でのご意見（抜粋）

1. 環境について

- ・子ども達が“やりたい”ことが実現する環境が整っている。片付けしやすい工夫が見られた。(目印を貼ったり、区画を示したりして、決められた場所に整頓できるように工夫されていた)
- ・蟬の抜け殻を箱に並べ数を数えること、おすし屋さんの看板作りで文字を書くこと、時計を見て動くことなど、学校生活につながる姿があった。

2. サークルタイムについて

- ・就学後、子ども達から「サークルタイムやりたい」という声も出ていて、今回参観させてもらい、1年生でも取り入れることができそうだと感じた。
- ・小学校でもサークルタイムを“共通言語”として使っていきたい。

3. 子どもとの関わりについて

- ・気持ちを受け止める、否定しない、安易に迎合しない、子ども達への言葉掛けが、信頼関係の構築に繋がっていると感じた。
- ・こども園ではいろいろなことを自分の力でできていた(やろうとしていた)子ども達が、学校内では1番年下になるため、入学と同時に子ども扱いしているのではと感じる。

Q,保育者の肯定的な言葉掛けが印象に残っている。どのように心掛けているのか。

A,人権や倫理に関わる研修を受けたりしながら、言葉掛けはもちろん、接し方なども配慮している。

最後に、小池貴弘校長先生より、今後の羽茂小学校と羽茂こども園の連携の方向性について、お話をいただきました。就学する子ども達が1年生になるときに階段を1段上がるのではなく、スムーズな坂道を無理なく登っていくイメージが「架け橋期」の連携であること。そのためには双方でできることは何か。今ある「当たり前」を見直し、意識を変えていくことが大切であるとお話いただきました。

また、「現状は交流活動も増えているし、職員の意識も深まってきている。今後は具体的な実践の蓄積が必要である。」「交流が目的ではなく、連携することが子ども達のスムーズな就学につながる。連携のために何ができるかを考えていきたい。」ともお話しいただきました。

「今年の1年生は“やってみよう!”という気持ちがとても強く、意欲的に取り組む姿があり、これまでのこども園小学校の連携の賜物だと感じています。」と、とても嬉しい言葉もいただきました。

今回の保育参観は連携の中のほんの一部です。私たち保育者、学校の教員の意識が、子ども達のスムーズな就学につながることを忘れず、これからも引き続き、子どもたちが「学校ってたのしい」「学んでワクワクする」と感じることができるよう、そしてなにより大切な“生きる力を育むこと”ができるよう、小学校の先生方と手を携えて「架け橋期」の子ども達のため、連携を深めて行きたいと考えます。



ある日のこと...
小学校で飼育しているヤギの「ふくくん・だいくん」が園庭にやってきました。日常的に自然と関わる事ができるこの関係性を嬉しく思います。